我が里・神明山講の歩み

神明山講　講元　吉田　松雄

近年都市化の波に洗われて東久留米は急速に変貌しつつある。それに伴って古くからこの地に伝承されて来た様々な民俗も急速に失われようとして居る。

ここでとりあげる講の行事も例外ではなく、かっての農地には団地が建ち並び住宅街が広がって居る。

市内のあちこちもかつてはそのほとんどが見渡すかぎりの雑木林と畑であった頃の事をつい昨日のよう思出し懐かしむ人もまだ多い。今の内に東久留米の民俗行事のわれわれ祖先の貴重な生活文化の伝承を記録し後世に伝える事が重要に思われます。

地域はそれらの伝承の中で講中などいっても、戦後生れの若い人達には耳なれない言葉です。現在のように市制の布かれる以前は、東久留米一体は神山・落合・門前・小山・南沢・前沢・下里・柳窪・柳窪新田、九つの大字でなりたち、都市化のおきる以前はすべて農家で有りました。私共東久留米市は新青梅街道より北側に成り中央を落合川が流れ北側を黒目川が流れ肥よく富んだ土地で有ります。先祖はこの土地をもちいて農業に専念しました。現在でも御岳講は各部落とも続けて居ります。東久留米での御岳講の発足は詳かではございませんが、知って居る所を御紹介申上ます。安政の頃吉田孫一郎・吉田弥一郎が講元に成った様に聞きました。

御岳講の武蔵御嶽神社は青梅市御岳山頂に鎮座して坂東の霊山として御神徳を高めて関東一円を始め広く崇敬を集めて居ります。特に慶長年間徳川家慶公により修築された旧本殿は東京都有形文化財に指定を受けた優れた建造物で有ります。

明治に入り吉田喜兵衛と言う私の先祖は神奈川県多摩群南沢小字神明山の村長に成り、永年講元をつとめ老いて吉田兼吉へゆずり永年講元を努めました。吉田常三郎さんも講元を務めました。吉田武二さんも講元を務めました。高橋作次郎さんも年老いる迄講元を努めました。高橋直さんも六年二期の間講元を努めました。大山市五郎さんも病死する迄講元を努めました。大山市五郎の時より登拝者全員で御岳山へ代参してまいりました。吉田松雄講元も引き続けてゆきます。

平成十七年酉年式年大祭記念事業大祭の時は馬場御師の御指導と前講元大山市五郎さんの御指導の元で、二十九名全員で多額の御浄財の御寄付を頂き大変有難う御座ました。先祖より伝いる御岳神社の大切さを広め乍ら先祖より伝わる御岳講中が末永く続けられます様に願ってやみません。

最後に肥沃の大地を生み家族の地域を守り育てて参りました大くの先人の衛業の志を感謝し強くする者で有ります。五穀豊穣郷土安援拠所として作神様として御岳神社の御加護を頂き有難う御座います。

おわりに当りまして御岳神社の益々のご隆盛、発展と合わせて馬場御師さんの御健勝を祈念申し上げます。

国宝 金覆輪円文螺鈿鏡鞍渡米する

米国・メトロポリタン美術館（ニューヨーク市）に、当神社所蔵の「国宝・円文螺鈿鏡鞍」の出展が決まった。これは、文化庁文化財部美術学芸課より文化庁主催海外展「侍の芸術展」への出品依頼を受けたもの。会期は平成二十一年十月二十日から平成二十二年一月十日まで。

日本の優れた文化財を紹介し、日米両国の文化交流を深めることを目的とし、文化庁及び東京国立博物館所蔵の国宝・重要文化財を中心に二一五点を出品する予定。貸出期間は平成二十一年九月上旬から平成二十二年三月下旬まで。さらに出展記念として「国宝・円文螺鈿鏡鞍」の土鈴を特別に作製し、皆様に授与できるよう準備を進めている。

現在は土曜・日曜・祝日のみ観覧が可能。

レンゲショウマまつり

「レンゲショウマ」関東一の群生地と言われる

深山クワガタと兜虫

女神達が鎮まる産安社周辺は、その恵みのように美しいレンゲショウマが咲きみだれます。御嶽神社参道内も、その可憐な姿を楽しめます。8月中は「レンゲショウマまつり」とうたい、親子で楽しめるイベントや、おいぬ様の神話をヒーリングミュージックにのせた舞台や古典悠久の調べを思い描く横笛の夕べなどの幻想的なイベントもございます。フォトコンテストや写真展も開催され一夏の夢が楽しめます。よろしければ夏のご参拝は避暑と鑑賞を兼ね、数日の御滞在でお楽しみください。例年ですとレンゲショウマは9月上旬頃まで楽しめます。お手数でございますが、今年度の詳しいイベントの内容は（〇四二八）七八一八四五〇まで。

神話「大口真神と若き日の重忠」

日の出祭

山伏の入峰儀式が発祥とされ、当社に於いて最も格式が高い祭とされ、日の出祭に御参加・御参列されますと、みたけ様の御稜威（みいず）をいただき、一年の無病息災・家内安全をお守りいただけるとされております。このお祭りでは、お供として行列に供奉される方や神輿を警護する鎧武者・健やかな成長を祈念する稚児を募集しておりますのでぜひ御参加ください。

神輿と武者

五月七日　宵宮　午後八時

夕闇・御霊代（みたましろ）は絹垣に護られながら、陰燈（かげとう）のやわらかな光に包まれ幻想的な行列を粛々と進めます。

五月八日　本祭・行列出発　午前十時

御岳平（ケーブルカー駅前広場）より神輿を中心とした行列が御師集落を抜け、神の力を戴き三百段の石段に挑みます。

供奉料　三千円・五千円・一万円以上

鎧武者・稚児　供奉無料

鎧の持参可能。

詳しくはお問い合わせ下さい。

先祓い

神と子と供に